

科目名	近代日本社会変動論 特殊研究	担当者	コミネ 小峰 カズオ 和夫	期間	通年	単位数	4
-----	-------------------	-----	------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	当科目の目的は、日本の社会が今いかなる歴史的発展の途上にあるのか、これから我われが進むべき道、あるいは選択しうる道はどのようなものなのかといったテーマに関して、社会経済史的な視野から総括的に学習し、現代社会の動向を的確にとらえることのできる知的基盤を養うことである。学習を通じて社会科学の視野を身につけることができるはずである。 [A-4-3]		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】 総合的な歴史的見地に立った社会科学の世界にふれることにより、混沌として見えにくい現代日本社会の仕組みと動きをとらえる視座と方法を身につける。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 学習の決め手は読書力と文章表現力の養成である。読書力の向上は、何よりもまず教材の内容を的確に理解し、その内容を整理して説明し、問題点を指摘することにより図られる。その読書力=理解力の程度をしめすのが文章表現力であり、レポート=報告作成には不可欠の技能である。この二つの知的スキルを養い、知識・解釈のレベルを向上させる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 教材の読解、レポートのためのメモ作成、参考図書等の利用、レポート草稿の作成と提出、添削結果への対応修正、レポート最終提出。準備学修時間は1課題につき45時間が目安。</p>		
学修方略 (方法)	<p>【当科目の学修方略はレポート作成】</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 manaba あるいは e-mail を媒体としての担当教員との双方向的学習が中心となる。</p> <p>【学修方略 (LS)】 ①教材をよく読み込み、意欲的に新たな知見を獲得し、著者の主張を的確につかむ努力をする。それにより他者の意見を理解する能力を高める。(準備学修時間13時間) ②教材以外の文献等からも情報・知見を得るようにする。(準備学修時間5時間) ③レポートの内容、構成、論点を整理する。(準備学修時間7時間) ④レポートを執筆する。(準備学修時間13時間) ⑤草稿を提出し、添削結果に従って内容を修正改善し、期限に間に合うよう最終稿を仕上げていくようにする。(準備学修時間7時間) ⑥以上レポート1課題につき45時間が準備学修時間の目安。</p>		
スケジュール	<p>①草稿の提出：前期は7月末までに、後期は11月末までに、それぞれ最低1回は草稿を提出し、教員からの添削を受ける。</p> <p>②草稿の手直し：前期は8月末、後期は12月末までを目途に、添削結果に対応した改善を草稿に加える。</p> <p>③最終稿の提出期限は、前期が9月19日、後期は1月14日である。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	100%	教材の理解度、レポートの構成、文章力と語彙力、参考文献等の利用具合、論旨の明快度、添削への対応状況等をみる。
履修者への要望	学習は自分を磨くためにおこなうものと心得、骨身を惜しむことなくできるだけ真摯に取り組むようにしてほしい。とくに指定の教材に関しては、これをきちんと読み込み、課題に適切に対応したレポートを作成するよう努力してほしい。		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名 見田宗介 教材名 『現代社会はどこに向かうか』（岩波書店，2018年）760円+税
	近代社会，あるいは資本主義社会はいま深刻な行き詰まりをみせている。将来に向けての明るい展望や期待が失われている。人間の社会は歴史上のどのような地点に達しているのか。そしてどこに向かおうとしているのか。人々，とりわけ若い世代は何を望んでいるのか。教材はこうした現代的・世界史的テーマに正面から取り組んでいる。 ○現代社会はどこに向かうか ○脱高度成長期の精神変容 ○ヨーロッパとアメリカの青年の変化 ○ダニエルの問いの円環 ○生きるリアリティの解体と再生 ○ロジスティック曲線について ○高原の見晴らしを切り開くこと ○世界を変える二つの方法
参考図書	佐伯啓思『貨幣と欲望』（筑摩書房，2013年）1400円+税 橋本俊詔『21世紀の資本主義を読み解く』（宝島社，2015年）1400円+税 岡田斗司夫『僕たちは就職しなくてもいいのかもかもしれない』（PHP研究所，2014年）760円+税
履修上のポイント	(1)まずは教材をきちんと読み，著者の言わんとするところをよく理解してほしい。 (2)教材のテーマは非常に大きなものなので，自分自身もじっくり考えてみる姿勢でレポートに取り組んでほしい。 (3)教材だけを読んでレポートを書くのではなく，たとえば上記の参考図書に挙げられているような本にも目を通して，色々な角度から問題を考えるようにしてほしい。
レポート課題 1	テキストの中で語られている「世界の無限」「世界の有限」とはどのようなものか。その概要をまとめ，それについて論評しなさい。 留意点 ：著者の見解をよく理解しきちんとした論評を書くようにしてほしい。
レポート課題 2	テキストの著者は，先進国の若者の意識変化をみてどのような未来を予測しているか。その概要をまとめ，それについて論評しなさい。 留意点 ：課題 1 と同じ。

基本教材 2	
教材の概要	著者名 岩井克人 教材名 『会社はこれからどうなるのか』（平凡社，2009年）950円+税
	いま資本主義経済は 18 世紀以来の産業資本主義の時代からポスト産業資本主義の時代に移行しつつある。この歴史的な大転換は「グローバル化」「IT 革命」「金融革命」の三つの波によって推し進められている。当然のこと資本主義経済の主役である会社も，これに対応して大きく変化せざるをえない。しかし日本の会社はこれに対応できないでいる。著者は「株式会社」の再検証によりポスト産業資本主義時代を展望する。以下がおもな内容。 ○会社という不思議な存在 ○法人論争と日本型資本主義 ○日本型資本主義とサラリーマン ○日本型資本主義の起源 ○資本主義とは何か ○ポスト産業資本主義における会社のあり方 ○会社で働くということ
参考図書	平川克美『株式会社という病』（文藝春秋，2011年）648円+税 伊藤誠『日本経済はなぜ衰退したのか』（岩波書店，2013年）780円+税 吉川洋『人口と日本経済』（中央公論新社，2016年）760円+税
履修上のポイント	(1)教材は，株式会社と資本主義の変化を原理論的・歴史的にとらえ，21世紀におけるそれらの在り方を展望している。ぜひその見解の全容を理解してほしい。 (2)自己の体験や見聞を生かしたレポートにするのが望ましい。 (3)参考図書など教材以外の情報にも当たり学習内容の充実を図ってほしい。
レポート課題 1	下記の二問から一つ選びレポートしなさい。 ①株式会社における「経営者の倫理」についての教材の見解をまとめ，それについて論評しなさい。 ②日本では会社の従業員のことを「会社員」と呼ぶのが普通である。このことについての教材の見解をまとめ，それについて論評しなさい。 留意点 ：自己の経験でレポートに生かせるものがあればそれを盛り込んでほしい。
レポート課題 2	下記の二問から一つ選びレポートしなさい。 ①教材ではポスト産業資本主義の時代における「おカネと株主」の重要性についてどう予測しているか。著者の考えをまとめ，それについて論評しなさい。 ②教材ではポスト産業資本主義の時代における「会社と従業員のあり方」についてどう予測しているか，著者の考えをまとめ，それについて論評しなさい。 留意点 ：課題 1 と同じ。